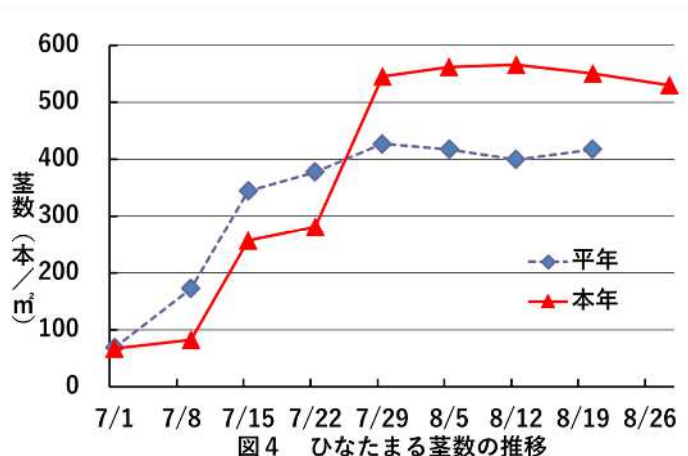
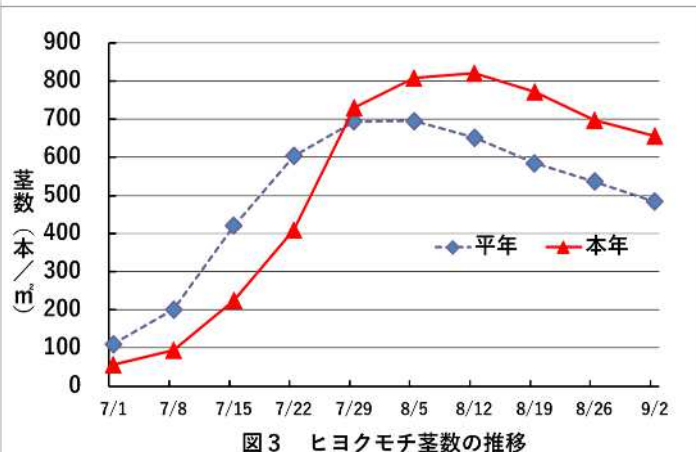
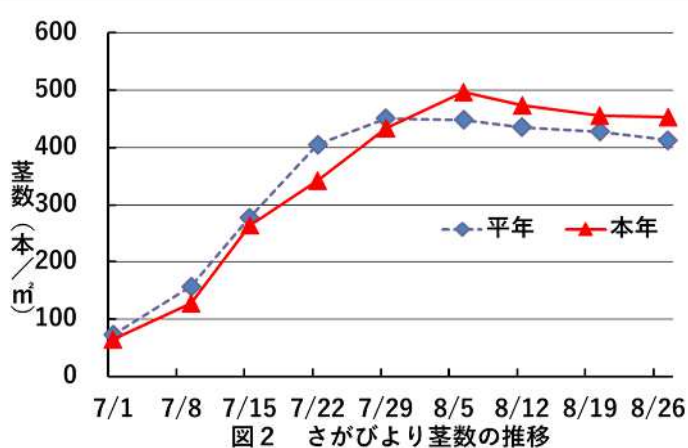
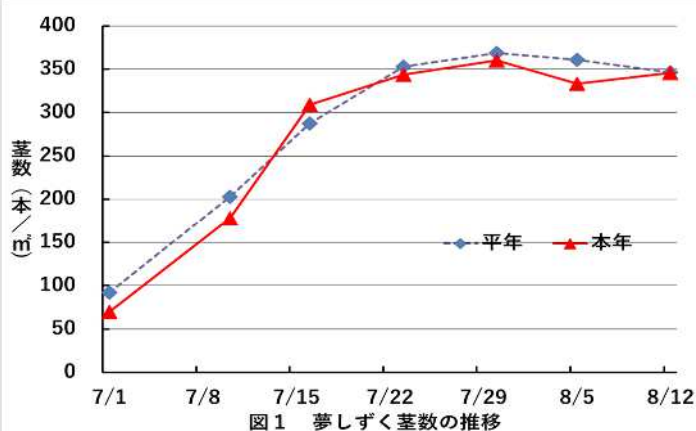


稲・大豆作情報（NO. 10）

1. 水稻作況情報田の生育概況（9月2日現在）

品 種 場 所	移植日 栽植株数	年 次	現在の生育状況				概況
			草 丈 c m	茎 数 本／㎡	葉 齢	SPAD	
夢しずく 佐賀市本庄町	6/16 18.7株/㎡	本 年 平 年 平年比	出穂期（本年）8月16日 出穂期（平年）8月16日 平年並み				【気象】8/26～8/31まで 平均気温：高い（平年+4.4） 降水量：少ない(平年比1%) 日照時間：長い(平年比156%) ○草丈：「ヒヨクモチ」は平年 より高い ○茎数：「ヒヨクモチ」は平年 より多い。 ○葉齢「ヒヨクモチ」は平年より やや進んでいる。
さがびより 小城市芦刈町	6/20 19.6株/㎡	本 年 平 年 平年比	出穂期（本年）9月1日 出穂期(平年) 8月31日 平年＋1日				
ヒヨクモチ 神崎市千代田町	6/21 15.8株/㎡	本 年 平 年 平年比	87.6 83.4 (105)	657 484 (136)	16.6 16.3 (+0.3)	38.1 36.8 (+1.3)	
ひなたまる 佐賀市大和町	6/20 15.4株/㎡	本 年 昨 年 昨年比	出穂期(本年)8月26日 出穂期(昨年)8月28日 平年－2日				

注1) 各品種 前作：麦 注2) 施肥及び病虫害防除は地区基準に準ずる
 注3) 平年値は、過去10年間（H27～R6）の平均値
 注4) ひなたまるはR7年から作付けのため、昨年との比較のみの記載になります。

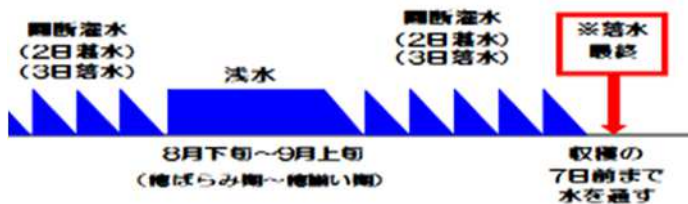


◆農業試験研究センター米づくり情報10号 9月3日(抜粋)

移植日	項目 品種	年次	草丈 cm	茎数 本/m ²	葉色 SPAD	止葉 葉数	概要 (平年及び平均との比較)
6月19日	ヒヨクモチ	本年 平年 平年比(差)	81.7 ※平年データなしのため本年値のみ	680	38.7	16.1 15.9 +0.2	【気象】8月27～9月2日まで ◆平均気温…4.3℃高い ◆日照時間…長い (平年比163%) ◆降水量…少ない (平年比1%)
			幼穂形成 始期	出穂期	成熟期		
6月18日	夢しずく	本年 平年 平年比(差)	7/27 7/28 (-1)	8/15 8/17 (-2)	未 9/23 —		【生育】 ◆止葉葉位 「ヒヨクモチ」は平年並み。
	ヒノヒカリ	本年 平年 平年比(差)	8/4 8/4 (±0)	8/25 8/27 (-2)	未 10/8 —		【出穂期】 「さがびより」…3日早い
	ひなたまる	本年 平均(2か年) 平均比(差)	8/5 8/3 (+2)	8/26 8/25 (+1)	未 10/9 —		「ヒヨクモチ」は走り穂がみられている(出穂期予測 9月5日頃)。
6月19日	さがびより	本年 平年 平年比(差)	8/8 8/9 (-1)	8/29 9/1 (-3)	未 10/13 —		
	ヒヨクモチ	本年 平年 平年比(差)	8/15 8/15 (+1)	未 9/5 —	未 10/28 —		

2. 水稻における今後の管理

○水管理 ～ 圃場の状況に応じた水管理の徹底 ～



用水等から十分な引水が難しい圃場では…

- ① 少ない用水を効率的に利用するため、溝切を実施することが効果的
- ② 蒸発散量の少ない夕方から未明での灌水が、水稻の萎凋・枯死の被害を軽減できる。

「夢しずく」

・早植えの「夢しずく」(5月下旬～6月上旬移植)は、**黄熟期～完熟期**、普通期の「夢しずく」(6月中旬移植)は、**糊熟期**を迎えている。今後の水管理は根の活力維持及び地固めのため間断灌水に移行する。

「ヒノヒカリ」、「ひなたまる」、「さがびより」、「ヒヨクモチ」

- ・「ヒノヒカリ」、「ひなたまる」は**乳熟期**を迎え、「さがびより」は**出穂期**を迎えている。「ヒヨクモチ」は、まもなく**出穂期**を迎える。
- ・幼穂形成期以降は、稲が水を必要とする時期なので、穂揃い期まで浅水で湛水状態を保つ。

○(全品種共通)

- ・今後も高温が続くと予想される。特に夜間の高温は、穂への養分転流が阻害され、登熟歩合の低下や白未熟粒発生による品質低下が懸念される。そこで、湛水管理を行う際に夕方以降の、水が可能なれば、

○高温干ばつ対策

福岡管区気象台(9/3 発表)によると、九州北部地方は今後(9/5～10/4)も、暖かい空気が流れ込みやすいため気温の高い状態が続く見込みで、特に期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

出穂前後に高温が継続すると、

- ① 呼吸作用と茎葉からの蒸散作用の増加が起こる。
- ② 植物体内の同化養分量の減少により、えい花数の減少や小穂化が懸念される。
また、少雨により圃場の干ばつ状態が継続すると、
- ③ 幼穂形成期から出穂開花頃までは、穂の短小化、えい花数の減少、不稔が起こる。

【高温対策】

- ① 高温条件下では、茎葉からの蒸散量が増加するので水分の補給は十分に行う。
- ② 高温・少雨条件が続けば根の機能低下が著しい⇒よりこまめな間断・灌水で根の機能維持に努める。
- ③ なるべく夕方冷たい水に入れ替え地温を下げるよう努める。特に、日中35℃、夜温が25℃を超えるような日が続く場合「掛け流し灌漑」が有効である。

【干ばつ対策】

- ① 幼穂形成期から出穂期が最も要水量が大きい時期であるため、幼穂形成期以降は間断灌水を行い、減数分裂期(出穂10日前)～穂揃期までは湛水を長めにするように心がける(この期間は最低でも黒乾状態とし、できれば湿潤とする)。
- ② 被害の目安としては、日中は若干萎凋していたとしても、朝夕は正常に戻っていれば被害は最小限に抑えることができる。穂ばらみ期に葉の先端の水孔からの排水が止まる(日暮れになっても先端に水滴がつかない)と白穂の危険性がある。
- ③ 幼穂形成期に白乾で経過し、穂ばらみ期に急激に灌水状態とすると、根の活力が失われるなどして、登熟不良になることが懸念される。したがって、最初は「はしり水」などして湿潤状態で経過させ、その後湛水するようにする。

○施肥管理

「ヒヨクモチ」

- ・下記の穂肥施用基準を参考に施用する。
- ・穂肥施用時は湛水し、その後の間断灌水では、土壌中に酸素を送り、根の活力を向上するため落水期間を確実にとる。なお、田面が緩い場合、収穫と麦播種作業の効率化を図るため、落水期間をやや長めにとる。

表1. ヒヨクモチの穂肥施肥基準

	実肥施用量(kg/10a)
施用時期の目安	穂揃期 (9月8日～10日頃)
LPBB804	—
BB602	10

※「元肥一発肥料」を施用した圃場で、穂肥Ⅱの時期に葉緑素計(SPAD)で40を切る場合、窒素成分で2kg/10a程度(BB602 15kg/10a)施用する。大豆跡では、上記の5割未満に減肥して施用する。

○病害虫情報(発生および防除)

- ・今後も高温が続く見込みであり、高温・少雨の条件下では害虫の発生が多くなるため、発生状況を確認し適期防除を実施する。
- ・セジロウンカとトビイロウンカは、6月3日頃～飛来しており、6月20日～7月6日、7月16～20日頃に主要な飛来が確認されている。(トビイロウンカ：7/1～7/6の飛来が約8割)

【トビイロウンカ】

トビイロウンカは、7月下旬調査において平年よりやや多い発生で、梅雨明け以降、気温が高く降雨日が少ないといった増殖に好適な条件で推移しており、「向こう1ヶ月の気温は高い」と予想されているため、今後も本虫の増殖に好適な条件が続くと考えられる。

- ・防除については、1回目の防除適期は8/20～24、2回目の防除適期は9/18～9/25となっています。
(次ページの発生予測の図1)
- ・防除する場合は、湛水するとともに薬剤が株元まで十分にかかるように丁寧に散布する。

【有効薬剤：オーケストラ、エクシード、エミリア など】

【コブノメイガ】

- ・コブノメイガは6月20日頃および6月26日頃に飛来が確認されており、圃場によっては幼虫の食害が多い圃場も見受けられる。
- ・コブノメイガの発生予測は次ページのとおりで防除適期は幼虫ふ化揃い期(発蛾最盛期の7日後)である。今後、止葉を含む上位3葉に被害が発生すると減収につながるため、発生状況に注意する。

【有効薬剤：ロムダン、トレボンなど】(各自圃場の状況を見ながら防除をおこなう。)

- ・上記の両害虫とも、品種別に発生状況は異なると考えられるため発生状況を確認し、適期防除に努める。
- ・発生予測は随時更新されるため、防除の考え方等については、最新情報を農業技術防除センターのホームページで確認してください。

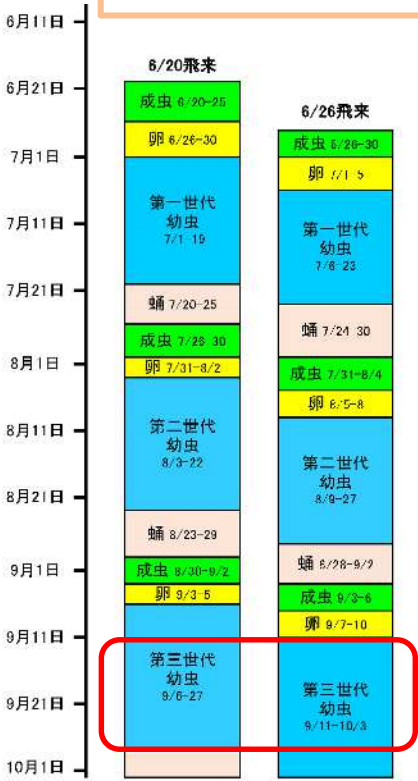
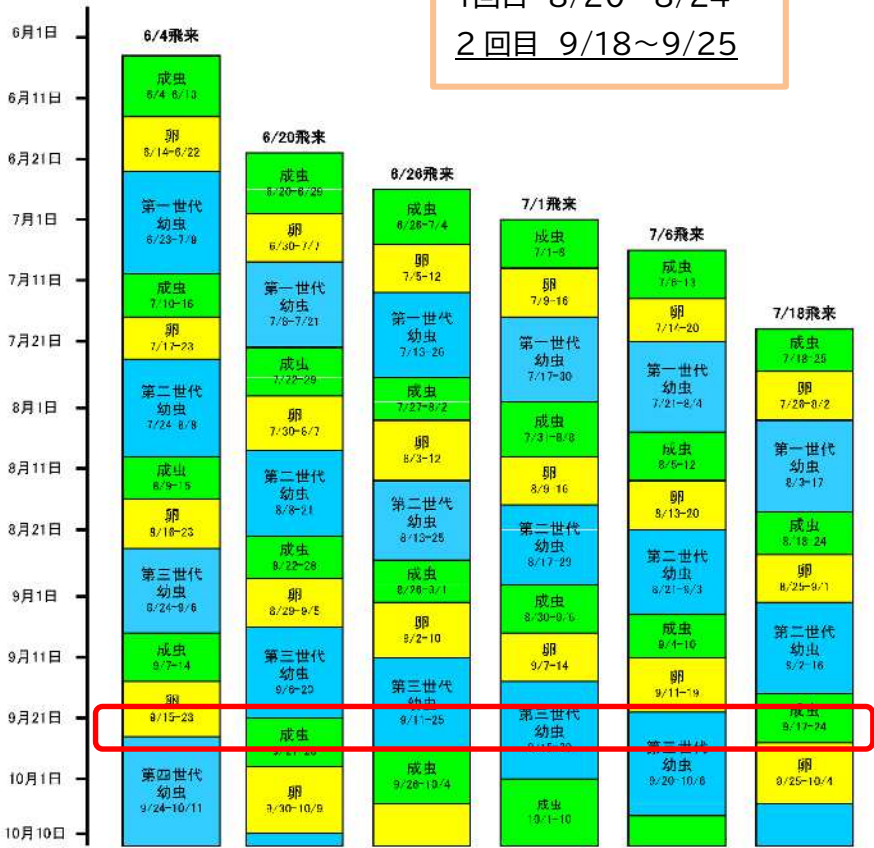
連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部
〒840-2205 佐賀市川副町南里1088
TEL (0952)45-8153 FAX (0952)45-5085
Mail nougyougijutsu@pref.saga.lg.jp



【ウンカ類・コブノメイガ】

トビイロウンカ防除適期
1回目 8/20～8/24
2回目 9/18～9/25

コブノメイガ防除適期
1回目 8/8～8/22
2回目 9/11～9/27



共通一図1 トビイロウンカ各世代の発生予測 (第3版、2026年8月20日作成)
1. 6月3～6日頃 (図では6月4日)、6月17～20日頃 (図では6月20日)、6月26～27日頃 (図では6月26日)、7月1～2日頃 (図では7月1日)、7月4～6日頃 (図では7月6日)、及び7月16～20日頃 (図では7月18日)の飛来虫を起点とし、トビイロウンカの有効積算温度及び佐賀市川副町のアメダスデータ (8月20日以降は平年値) に基づき作成した。三角法を用い、発育零点 12℃、発育上限温度 28℃、発育停止温度 33℃とした。
2. 田植え時期、品種等の違いによって、本虫の発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。

共通一図2 コブノメイガ各世代の発生予測 (第3版、2026年8月20日作成)

【斑点米カメムシ類】

- ・今年度は斑点米カメムシの発生が平年より多く、R8年7月 29 日付けて早植え及び普通期水稻を対象とした注意報が発令された。管内でも多発生圃場が散見されており、9 月3日発表の九州北部地方の1か月予報(9/5～10/4)では、今後1か月程度も、気温の高い状態が続き、降水量はほぼ平年並みの見込みとされており、多発生条件となっている。
- ・出穂後の除草は、水田内に斑点米カメムシ類を誘い込んで被害を助長するため、**出穂 10 日前までに畦畔除草**を行い、山麓部や河川敷付近など例年発生の多い圃場では、**乳熟期 (穂揃い期の約 10 日後) を中心に薬剤防除を徹底**する。
- ・防除はカメムシが穂に上ってくる夕方に行うと効果が高い。

表 2. 各品種別の草刈り時期と防除時期の目安

品種名	出穂 10 日前	出穂期 (平年)	乳熟期 (平年)
ヒノヒカリ	～8/17 頃まで	8/27	9/8 頃
さがびより	～8/20 頃まで	8/30	9/11 頃
ヒヨクモチ	～8/31 頃まで	9/10	9/22 頃



乳熟期の穂につく

クモヘリカメムシ
(8月20日)

注1) 出穂期 (平年) は、佐城管内における情報田のデータの平均値

◆農業技術防除センター 病害虫発生予察情報予報第5号（9月の予報） 8月26日（抜粋）

I. 予報の概要および各作物の特記事項

作物名	病害虫名 ^{注1)}	9月の予想発生量 ^{注2)} 平年比	予報対象の病害虫 (抜粋)
水稻 (山間早植え)	トビイロウンカ	やや多	 トビイロウンカ
	紋枯病	やや多	
	斑点米カメムシ類	多	
水稻 (普通期)	トビイロウンカ	やや多	 トビイロウンカ
	穂いもち	少	
	紋枯病	並	
	斑点米カメムシ類	多	
	コブノメイガ	多	
	白葉枯病	並	
	1. 斑点米カメムシ類 本年は多発生が予想されるため、穂揃い期と乳熟期（穂揃い期の約10日後）の2回薬剤防除を行う（令和8年7月29日付け病害虫発生予察注意報第4号参照）。 2. 紋枯病 発生が多い圃場が一部で認められる。各圃場で発生状況を確認し、病斑が上位3葉の葉鞘に達している場合は直ちに薬剤防除を行う。 3. トビイロウンカ 本種の発生状況は、田植え時期、水稻の品種、地域、これまでの防除の違い等によって異なるので、発生予測図（共通-図1）を参考にして、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。 4. コブノメイガ 止葉を含む上位3葉への被害を防止するため、各圃場における発生状況を確認し、幼虫ふ化揃い期である発蛾最盛期の約7日後に薬剤防除を実施する。		

【イネカメムシ】

- ・イネカメムシは、近年全国的に被害が拡大している斑点米カメムシの一種で、昨年から県内で確認されている。
- ・本種は、水稻の出穂始めに籾を吸汁して不稔にし、大きな減収被害が生じる。
- ・他の斑点米カメムシ類とは異なる特徴があり、適期の本田防除が必要となる。



（防除対策）

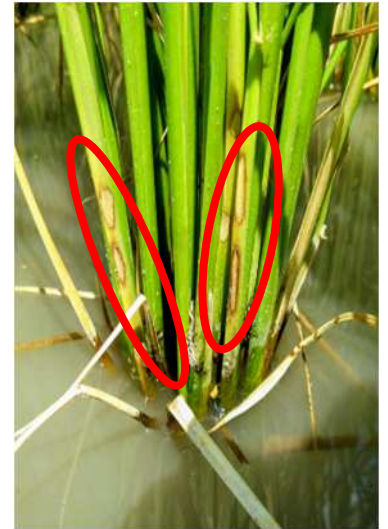
- 1) 圃場内をよく観察し、本種の早期発見に努める。特に、周辺より出穂が極端に早い、又は遅い圃場では、本種の飛来が集中するため、発生状況を注意深く観察する。
- 2) 出穂前に本種の発生を認めた圃場では、通常の斑点米カメムシ類の防除適期である穂揃い期～乳熟期の防除だけでなく、発生状況に応じて出穂期の薬剤散布を実施する。

【紋枯病】

- ・病虫害発生予察注意報（8月26日付け）において、普通期水稻では平年並とされているが、一部に発生が多い圃場が認められている。
- ・本年度は各品種で茎数が多く推移しており、葉身がうっぺいした圃場で、高温・多湿条件となれば多発生しやすい
- ・高温多湿条件が続くと、紋枯れ病が進展する恐れが高まるので、発生を認めた圃場では病斑が上位の葉鞘に進展（垂直進展）する時期に防除を徹底する。

（液剤、粉剤の場合は出穂10～20日前を目安とする）病斑が上位3葉の葉鞘に達している場合は直ちに薬剤防除を行う。

※昨年度から作付けを開始している「ひなたまる」は紋枯病に弱く、過去に紋枯病が多発し倒伏した事例もあるため、基幹防除を徹底する。



ひなたまる（R6年 8月）

○乾田直播情報

「さがびより」では出穂期を迎えている。（播種：5/25 出穂期：8/27）

「ひなたまる」では出穂期を迎えている。（播種：5/19 出穂期：8/25）

今後の水管理では、浅水管理を行い、湿潤状態を保つ。湛水しにくい圃場では、夕方からの入水を行い、最低でも黒乾状態を保つ。

3.大豆における今後の管理

1 大豆の生育状況

- ・7月上中旬に播種された圃場では、**開花最盛期～莢伸長期**始めている。
- ・7月下旬に播種された圃場は、出芽後でも高温乾燥により生育が停滞している圃場がみられ、**開花期**となっている。



7/14 播種 生育状況 (8/27 撮影)

2 今後の管理

1) 干ばつ対策について (降雨が見込めない状況の場合)

○高温乾燥が予測される場合の対策

- ・コルゲート管の閉栓が土壤水分確保に有効である。

◆大豆生育期間中に必要な水量



コルゲート管の閉栓

2) 畝間灌水

圃場がひび割れ白乾した状態になる前に努めて灌水を行う (過乾燥状態になると土壤内部に亀裂が入るため、畝間灌水しても圃場の先端まで通水せず地下に浸透してしまう)。

灌水方法としては、畝間灌水や額縁明渠を利用した灌水などを行う。その際、灌水後に圃場で滞水すると、根が退化し、大豆の生育が抑制されるため速やかに排水させることがポイントとなる。

※畝間灌水後は雑草の発生が多くなるため、除草剤散布等の雑草対策を行う。

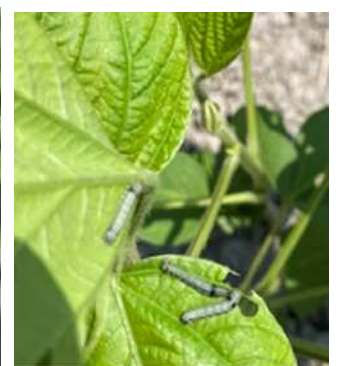
3 病虫害対策について (発生及び防除)

1) 【ハスモンヨトウ】→白変葉が発生

- ・夏季が高温少雨で経過した年は、発生が多く増殖に伴う被害拡大が懸念される。
- ・フェロモントラップの捕殺数や圃場毎に白変葉の増加に注意する。
- ・防除適期は、若令幼虫による白変葉が見られ始めた頃であり、防除が遅れ中令幼虫以上 (体長約2cm以上) になると、防除効果が低下する。
- ・防除後約3日経過した後も高い密度で食害を続けている時は、再防除が必要である。
- ・ハスモンヨトウには、フェニックスフロアブル、プルバノンフロアブルは感受性が低下しており



ハスモンヨトウの白変葉
(8月20日)



ハスモンヨトウの多発圃場
(8月19日)

◆農業技術防除センター病害虫発生予察情報予報第5号 8月26日(抜粋)

1. ハスモンヨトウ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査(図1参照)

発生株率 0.5% (平年 1.4%、前年 0.5%)

平年比：やや少(一~±)

白変葉発生株率 0.3% (平年 0.8%、前年 0.6%)

平年比：やや少(一~±)

② トラップ調査(図2参照)【県内8地点】

平年比：並(±)

(2) 9月の気象予報

気温は高く、多発生の条件(+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) フェロモントラップでの誘殺数は平年並で推移しているが、今後本虫の増殖に好適な気象条件が予想されており、発生が増加するおそれがある。各圃場での発生状況を確認し、白変葉が散見され始めたら確実に防除を行う。

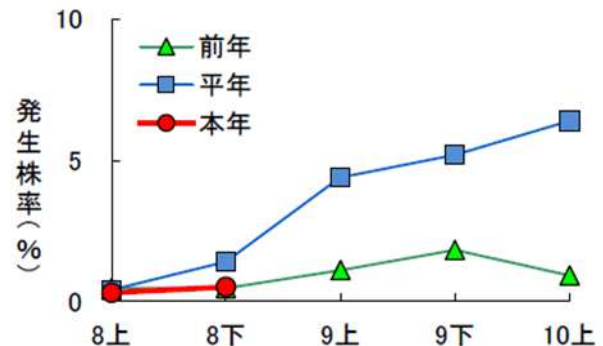


図1 大豆でのハスモンヨトウの発生推移

ハスモンヨトウトラップデータ(9月2日更新、情報提供機関:佐賀県農業技術防除センター)

フェロモントラップによるハスモンヨトウの誘殺数

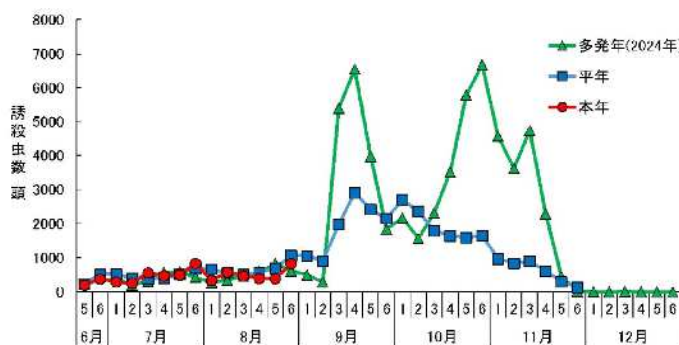


図1 フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の半旬別誘殺数
(農業試験研究センター内設置の2トラップの平均値)

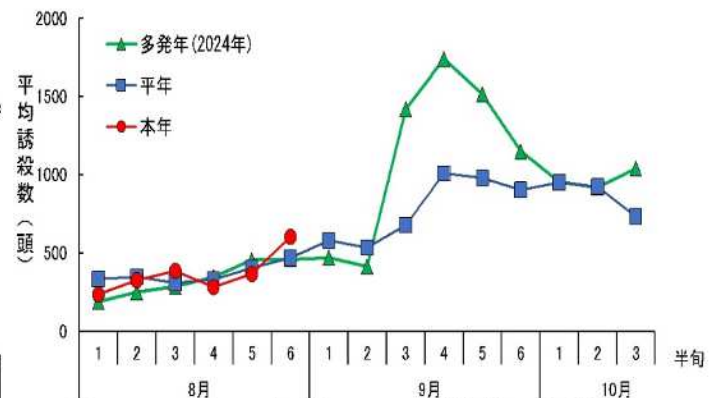


図2 フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の半旬別誘殺数
(農業共済組合、農業試験研究センター調査による県内8地点の平均誘殺数)

2) 【オオタバコガ・ウワバ類】 → 葉っぱに穴が開く

- ・ 気象予報では高温少雨が予測され、ハスモンヨトウと同様に多発生の条件となっている。
- ・ 葉に大きな穴が開いた株が目立ち、周辺に青虫がいる場合は、オオタバコガによる食害の可能性が高くウワバ類やシロイチモジヨトウが含まれる場合もある。
- ・ オオタバコガやシロイチモジヨトウには、ノーモルト、トレバンは感受性が低下しており、使用を避ける。

表4.防除薬剤（効果が高い薬剤）

	ハスモンヨトウ	オオタバコガ、シロイチモジヨトウ
薬剤名	ブロフレア, グレーシア, プレオ, ディアナ等	ブロフレア, グレーシア, プレオ, 等

4 雜草防除

難防除雑草への対応

アサガオ類やホオズキ類が圃場内に発生している場合、多発すると大豆の作付け自体が困難になるため、発生が少ないうちに、雑草の開花や結実前までの茎葉処理除草剤のスポット処理や手取りの防除に努める。

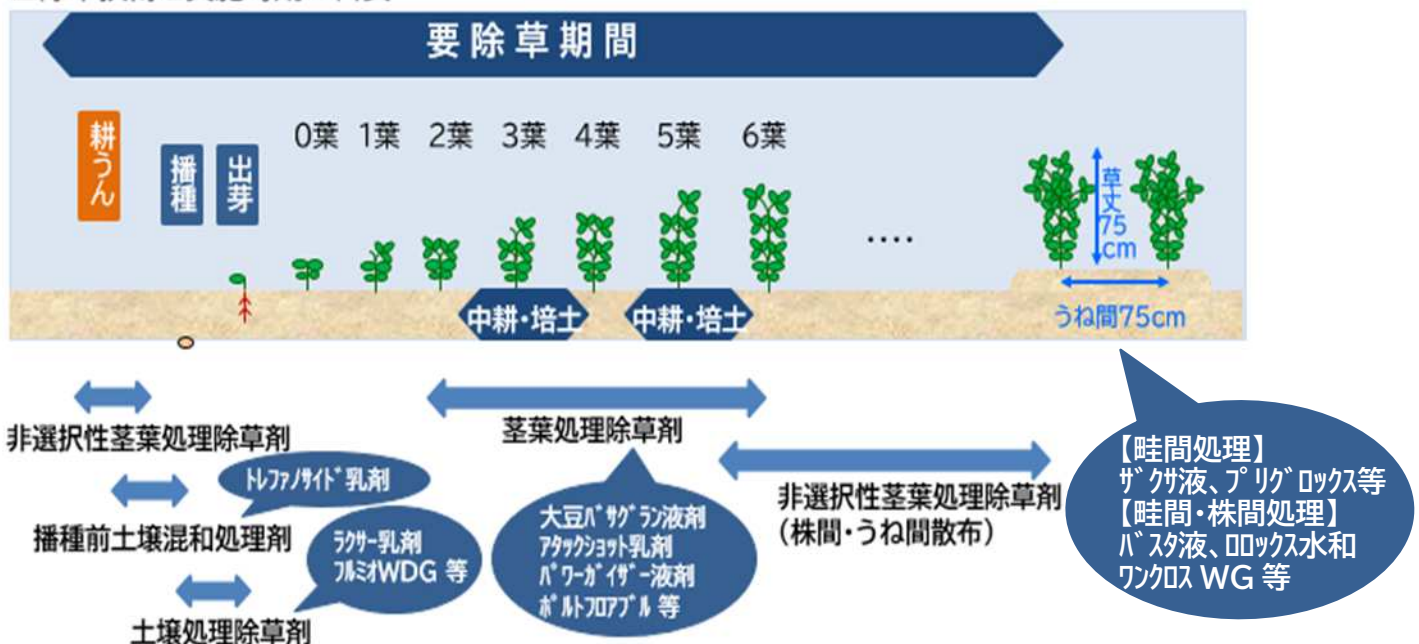
なお、ダイズの発芽不良・生育停滞によりアサガオが蔓延している圃場が散見される。開花・結実すると1株から数千個の種子をつけ、次年度以降の発生源となる。アサガオが開花・結実する前に、薬剤等による防除等を行うか、圃場から持ち出し圃場内の埋没種子を増やさないようにする。

ツクサ類（近年、特にカロライナツクサが蔓延）は土壌処理剤の効果が十分ではないため「プリグロックス L」や茎葉処理剤（大豆バサグラン等）での除草を基本とする。

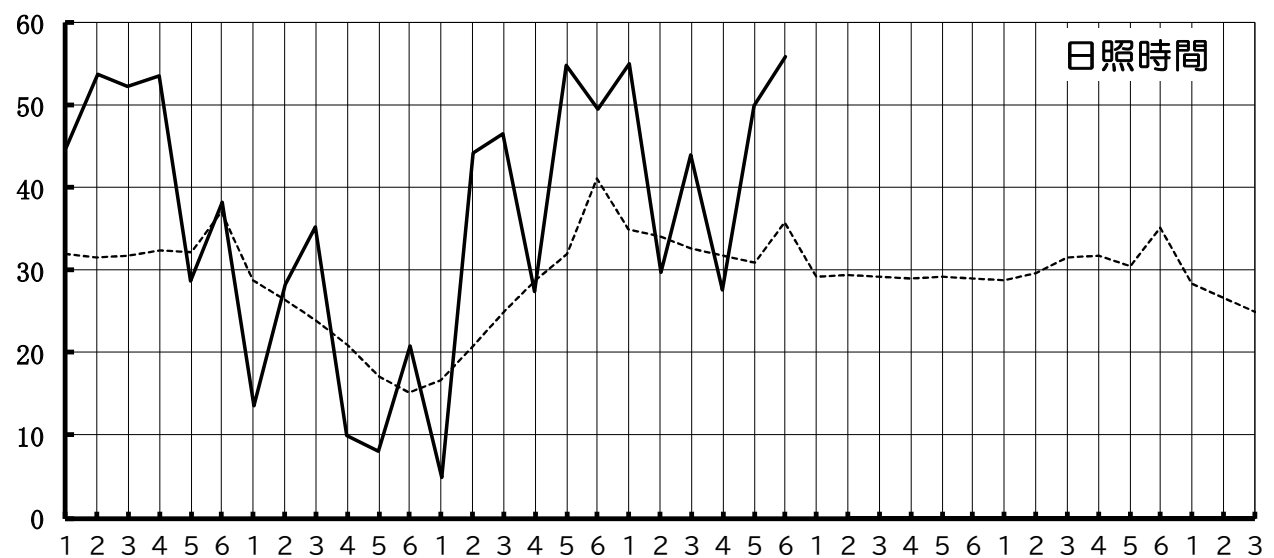
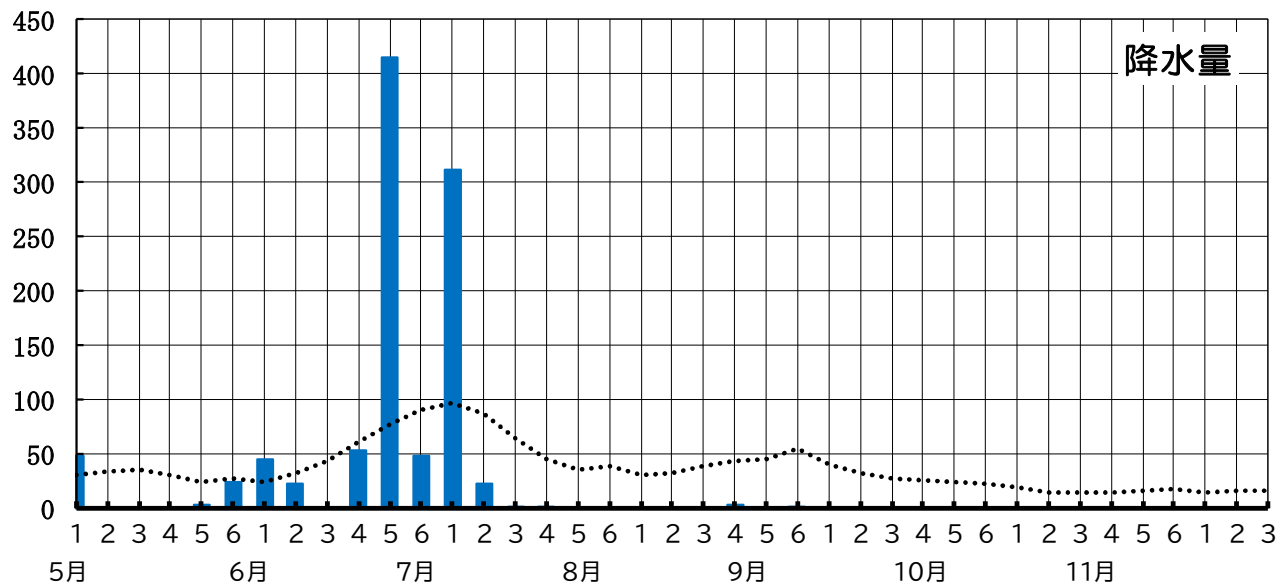


大豆圃場に蔓延したアサガオ (8/25)

■除草技術と実施時期の目安



佐城地域農業指導者連絡協議会

佐城農業振興センター

月	日	平均気温		品 種										さがびより				ヒヨクモチ	
		平年値 ℃	本年値 ℃	夢しずく					ヒノヒカリ		ひなたまる			6/22移植		9/2出穂		6/20移植	7/2移植
				早稲入/23移植 8/4出穂	6/10移植 8/12出穂	6/18出穂	6/17移植 8/17出穂	6/20移植 8/19出穂	8/25出穂	6/20移植 8/27出穂	6/20移植 8/20出穂	6/28出穂		6/21出穂	9/2出穂		6/20移植 8/3出穂	6/7出穂	
精算気温 最低値		平場上 900℃ 山麓 1,150℃		平 坦 940℃ 山麓 1,120℃				平 坦 1000℃ 山麓 1,190℃	平 坦 1000℃ 1200℃			平 坦 980℃ 1,150℃		平 坦 950℃ 1,150℃					
精算気温 最高値		35～45日		33～40日		40～45日		40～49日			38～47日		46～60日						
黄熟割合		早限～遅限	70～95%	75～90%		75～85%		判断困難			80%～90%		90～95%						
穂 水 分		早限～遅限	29～25%	26～23%		28～25%		25～24%			26～22%		28～22%						
8 月	4	28.8	31.9	出 穂 日															
	5	28.8	32.0	32															
	6	28.8	32.3	64															
	7	28.8	32.2	97															
	8	28.7	31.0	128															
	9	28.7	30.1	158															
	10	28.7	29.8	187															
	11	28.6	27.8	215															
	12	28.6	27.5	243	出 穂 期														
	13	28.5	28.7	271	29														
9 月	14	28.5	29.2	301	58														
	15	28.4	29.4	330	87	出 穂 期													
	16	28.3	29.3	359	117	29													
	17	28.2	29.3	389	146	59	出 穂 期												
	18	28.1	30.5	419	176	89	31												
	19	28.1	31.4	451	208	121	62	出 穂 期											
	20	28.0	31.6	482	239	152	94	32											
	21	27.9	30.8	513	270	183	124	62											
	22	27.8	31.0	544	301	214	155	93											
	23	27.6	31.7	576	333	246	187	125											
10 月	24	27.5	31.9	608	365	278	219	157											
	25	27.4	31.9	639	397	309	251	189	出 穂 期										
	26	27.3	31.9	671	429	341	283	221	32	出 穂 期	出 穂 期	出穂後日数							
	27	27.2	31.5	703	460	373	314	252	63	出 穂 期	32	1							
	28	27.1	31.5	734	492	404	346	284	95	32	63	2	出 穂 期	出穂後日数					
	29	26.9	31.3	766	523	436	377	315	126	63	94	3	32	1					
	30	26.8	31.1	797	554	467	408	346	157	94	125	4	63	2					
	31	26.7	30.8	828	585	498	439	377	188	125	156	5	93	3	出 穂 期	出穂後日数			
	1	26.6	30.5	858	615	528	469	408	219	155	187	6	124	4	31	1	出 穂 期	出穂後日数	
	2	26.5	31.0	889	646	559	500	439	250	186	218	7	155	5	62	2	26	1	出 穂 期
3	26.4		915	673	585	527	465	276	213	244	8	181	6	88	3	53	2	26	
4	26.3		942	699	612	553	491	302	239	270	9	208	7	114	4	53	2	52	
5	26.2		968	725	638	579	517	329	265	297	10	234	8	140	5	79	3	53	
6	26.0		994	751	664	605	543	355	291	323	11	260	9	166	6	105	4	79	
7	25.9		1,020	777	690	631	569	380	317	349	12	286	10	192	7	131	5	104	出 穂 期
8	25.8		1,046	803	716	657	595	406	343	374	13	312	11	218	8	157	6	130	26
9	25.7		1,071	829	741	683	621	432	369	400	14	337	12	244	9	182	7	156	52
10	25.5		1,097	854	767	708	646	457	394	426	15	363	13	269	10	208	8	181	77
11	25.4		1,122	880	792	734	672	483	419	451	16	388	14	295	11	233	9	207	102
12	25.3		1,148	905	818	759	697	508	445	476	17	413	15	320	12	259	10	232	128
13	25.1		1,173	930	843	784	722	533	470	501	18	439	16	345	13	284	11	257	153
14	24.9		1,198	955	868	809	747	558	495	526	19	463	17	370	14	309	12	282	178
15	24.8		1,222	980	892	834	772	583	520	551	20	488	18	395	15	333	13	307	203
16	24.6		1,247	1,004	917	858	796	608	544	576	21	513	19	419	16	358	14	332	227
17	24.4		1,271	1,029	941	883	821	632	569	600	22	537	20	444	17	382	15	356	252
18	24.2		1,296	1,053	968	907	845	656	593	624	23	561	21	468	18	407	16	380	276
19	24.0		1,320	1,077	990	931	869	680	617	648	24	585	22	492	19	431	17	404	300
20	23.8		1,343	1,101	1,013	955	893	704	641	672	25	609	23	516	20	454	18	428	324
21	23.6		1,367	1,124	1,037	978	916	728	664	696	26	633	24	539	21	478	19	452	347
22	23.4		1,390	1,148	1,060	1,002	940	751	688	719	27	656	25	563	22	501	20	475	371
23	23.3		1,414	1,171	1,084	1,025	963	774	711	742	28	680	26	586	23	525	21	498	394
24	23.1		1,437	1,194	1,107	1,048	986	797	734	765	29	703	27	609	24	548	22	521	417
25	22.9		1,460	1,217	1,130	1,071	1,009	820	757	788	30	726	28	632	25	571	23	544	440
26	22.7		1,482	1,240	1,152	1,094	1,032	843	780	811	31	748	29	655	26	593	24	567	463
27	22.6		1,505	1,262	1,175	1,118	1,054	866	802	834	32	771	30	677	27	616	25	590	485
28	22.4		1,527	1,285	1,197	1,139	1,077	888	825	856	33	793	31	700	28	638	26	612	508
29	22.2		1,550	1,307	1,220	1,161	1,099	910	847	878	34	815	32	722	29	661	27	634	530
30	22.1		1,572	1,329	1,242	1,183	1,121	932	869	908	35	838	33	744	30	683	28	656	552
11 月	1	21.9		1,264	1,205	1,143	954	891	922	36	859	34	766	31	705	29	678	578	574
	2	21.7		1,285	1,227	1,165	976	912	944	37	881	35	788	32	726	30	700	595	595
	3	21.6		1,307	1,248	1,186	997	934	966	38	903	36	809	33	748	31	721	617	617
	4	21.4		1,328	1,270	1,208	1,019	955	987	39	924	37	831	34	769	32	743	638	638
	5	21.2		1,349	1,291	1,229	1,040	977	1,008	40	945	38	852	35	790	33	764	660	660
	6	21.1					1,061	998	1,029	41	966	39	873	36	812	34	785	681	681
	7	20.9					1,082	1,019	1,050	42	987	40	894	37	832	35	806	702	702
	8	20.7					1,103	1,039	1,071	43	1,008	41	915	38	853	36	827	722	722
	9	20.6					1,123	1,060	1,091	44	1,029	42	935	39	874	37	847	743	743
	10	20.4					1,144	1,080	1,112	45	1,049	43	956	40	894	38	868	763	763
12 月	11	20.2					1,164	1,101	1,132	46	1,069	44	976	41	914	39	888	784	784
	12	20.0					1,184	1,121	1,152	47	1,089	45	996	42	934	40	908	804	804
	13	19.8					1,204	1,140	1,172	48	1,109	46	1,016	43	954	41	928	823	823
	14	19.6					1,223	1,160	1,191	49	1,129	47	1,035	44	974	42	947	843	843
	15	19.4					1,243	1,179	1,211	50	1,148	48	1,055	45	993	43	967	862	862
	16	19.2					1,262	1,199	1,230	51	1,167	49	1,074	46	1,012	44	986	882	882
	17	19.0					1,281	1,218	1,249	52	1,186	50	1,093	47	1,031	45	1,005	901	901
	18	18.8					1,300	1,236	1,268	53	1,205	51	1,112	48	1,050	46	1,024	919	919
	19	18.6					1,318	1,255	1,286	54	1,224	52	1,130	49	1,069	47	1,042	938	938
	20	18.4					1,337	1,273	1,305	55	1,242	53	1,149	50	1,087	48	1,061	956	956
1 月	21	18.2					1,323	1,260	1,290	54	1,167	51	1,105	49	1,015	48	1,079	975	975
	22	18.0					1,341	1,278	1,305	55	1,185	52	1,123	50	1,033	49	1,097	993	993
	23	17.7					1,359	1,296	1,323	56	1,203	53	1,141	51	1,051	50	1,115	1,010	1,010
	24	17.5					1,376	1,313	1,339	57	1,220	54	1,159	52	1,069	51	1,132	1,028	1,028
	25	17.3					1,394	1,331	1,357	58	1,237	55	1,176	53	1,086	52	1,149	1,045	1,045
	26	17.1					1,411	1,348	1,373	59	1,254	56	1,193	54	1,103	53	1,166	1,062	1,062
	27	16.9					1,428	1,365	1,390	60	1,271	57	1,210	55	1,120	54	1,183	1,079	1,079
	28	16.7					1,444												

●穂粒の先端（穂先）から、穂長の1/3～1/4程度で及び、1穂粒数の1割程度が活青米で残っているのが炊煙。
●刈り取りの時期（穂先）が「ヒビ刈り」が28～25%、「ひなたまき」で25～24%、「さびがより」で26～22%、「ヒヨコモチ」は28～22%となっております。
●早刈り、は、米の食味不足による「青米熟粒」や「死米」が発生しやすくなります。「青米熟粒」が多いと食味が劣り、まだ収量も低下しますので早刈りは避けますよう。

《収穫のポイント》

- 横算表はあくまで目安です。
- 圃場母の熟れ具合を確認したうえで、収穫日を決定してください。
- 早期落水は実不足により、品質低下の原因となります。必ず断根灌水を実施して、根の活力維持に努めて下さい。
- コンパイル収穫前には、麦などの異種穀類や異物の混入しないよう清掃点検をお願いします。
- 日中の高温条件下での収穫となり、積水日数の確保、収穫後はできるだけ、速やかに通風・乾燥を行います。